

第8回苫小牧市行政改革推進審議会 議事録

日 時	平成30年7月18日(水) 15:00 ~ 16:15
場 所	市役所 9階会議室
出席委員	池永委員、石田委員、石森委員、川島委員、菅原委員、杉立委員、須田委員、滝本委員、中瀬委員、中村委員、藤田委員、松村委員、山上委員(敬称略、五十音順)
事務局	行政監理室
会議次第	<ol style="list-style-type: none">1 開会2 会長挨拶3 議題 (1) 行政改革プラン-NEXT STAGE-平成29年度進捗状況に関する意見書(案)について4 その他5 閉会

発 言 者	発 言 内 容
事務局	<p>定刻となりましたので、ただ今から、第8回苫小牧市行政改革推進審議会を開催いたします。</p> <p>このたび、町内会連合会の役員改選により、加賀谷委員が退任されることとなりました。後任として、同じく苫小牧市町内会連合会から、星副会長に委員をお願いすることとなっております。</p> <p>本日は都合により欠席でございますが、残任期間の平成31年1月29日までの任期となりますので、よろしく願いいたします。</p> <p>それでは、審議会の開催にあたり、石森会長より御挨拶をお願いいたします。</p>
石森会長	<p>皆様、本日はお忙しい中、審議会に出席いただき、感謝申し上げます。</p> <p>また、大変お忙しい中、行政改革プラン－NEXT STAGE－の進捗状況について評価をいただき、重ねて感謝申し上げます。</p> <p>本日は、事務局から事前に送付があった意見書案について議論を行い、内容を固めていきたいと思っております。</p> <p>なお、意見書は、後日市長に提出する予定となっております。</p> <p>委員の皆様には、本日も忌憚のない御意見をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。</p>
事務局	<p>ありがとうございました。</p> <p>それでは、これからの議事進行につきましては、石森会長にお願いしたいと思います。</p> <p>石森会長、よろしくお願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、議題の『行政改革プラン－NEXT STAGE－平成29年度進捗状況に関する意見書（案）について』に入りたいと思っております。</p> <p>前回の議論を受け、各委員には、それぞれ評価シートを提出いただきましたが、これを事務局で取りまとめ、意見書の案を作成していただいております。</p> <p>本日は、この意見書について御意見をいただき、内容を固めたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>まず、事務局から説明をお願いします。</p>
事務局	<p>先般、委員の皆様には、行政改革プラン－NEXT STAGE－平成29年度の進捗状況に関する意見書案を事前に郵送させていただきました。</p>

説明に先立ちまして、この意見書案を取りまとめるにあたり、委員の皆様には、お忙しい中、評価シートを御提出いただき、貴重な御意見を多数賜りまして、誠にありがとうございました。

今回いただいた御意見と前回の審議会での議論をもとに、資料8-1のとおり意見書案を作成いたしました。

それでは、意見書案の概要につきまして、説明させていただきたいと思えます。

まず、全体の構成でございますが、表紙、目次とございまして、1ページには「はじめに」として、石森会長からの御挨拶を掲載しております。こちらのページにつきましては、事前に石森会長と調整させていただいております。

2ページは、「評価方法について」として、NEXT STAGEにおける評価の方法を掲載しております。

6ページから19ページにかけては、平成29年度進捗状況につきまして、テーマごとの評価、20ページには、「総評」として全体に対する御意見を掲載させていただきました。

22ページ以降につきましては、資料編といたしまして、前回、資料として配布させていただきました各取組の「平成29年度進捗状況シート」を添付することとしております。

それでは、意見書案の内容につきまして、簡単に説明させていただきたいと思えます。2ページを御覧ください。

「評価方法について」ですが、一番上の表には、各年度の評価スケジュールについて掲載しております。今回は、「平成30年度」の部分で、平成29年度の進捗状況について評価を実施することとしております。

中段から次のページの上段にかけては、進捗状況などを評価する場合の評価基準について掲載しております。

3ページ、米印の1番目は、昨年の意見書にも記載したのですが、審議会からの御意見を受け、プランにおける「取組終了」の意味合いについて注釈を入れたものとなっております。

また、その下の米印2番目は、今回の意見書における評価対象につきまして、改定する前のプランの取組に対するものであることを注記しております。

続いて、6ページを御覧ください。

ここからは、「平成29年度進捗状況に関する評価」としまして、委員の皆様からいただいた御意見の内容を、7つのテーマごとに取りまとめたものとなっております。

それぞれのテーマごとに、2ページ分の見開きで作成しており、まずはじめに、評価する取組項目と担当課の自己評価をまとめた表、次に枠で囲まれた部分になりますが、テーマ全体に対する御意見、そして、個別の取組項目に対する御意見という構成となっております。テーマ1からテーマ7まで、全て同様の構成となっております。

なお、今回、委員の皆様からは非常に多くの御意見をいただきました。意見書では、その中でも、多くの御意見が寄せられた項目や、複数の委員から同様の意見があったものなどを中心にまとめさせていただいております。

また、取組内容に対する御質問や、直接関係していないと思われる御意見などは、省略させていただいたものもございますので、御了承いただきたい思います。

それでは、テーマごとに、全体に対する御意見について説明させていただきます。

6ページのテーマ1「市民サービス向上策の積極展開」です。

「全体的に順調に進捗している」との評価が多く、「全国や世界における苫小牧という視点で、市民サービスの向上を考える必要がある」、「他の都市で受けられるサービスが苫小牧で受けられないということを実になくし、他の都市で受けられない苫小牧独自のサービスを先行して取り入れることが重要」、「サービス導入後には、具体的にコストパフォーマンスを高めていく努力を継続すべき」などの御意見がございました。

次に、8ページを御覧ください。

テーマ2「民間活力の積極的な活用」につきましては、「一部進捗状況に遅れが見られるが、着実に取組を進めることが重要」との評価となっております。

「今後は、民間ができない部分を行政が補う考え方を徹底し、行政運営の効率化を高めることが必要」、「産業育成の観点から、地元企業の活用も念頭に置くべき」、「導入後は、適切な運営となるよう適宜モニタリングを行い、市民にわかりやすく公開する環境づくりにも努めるべき」などの御意見がございました。

続いて、10ページを御覧ください。

テーマ3「公共施設の適正配置と効率的な活用」につきましては、「公共施設がまちづくりの要であることを意識し、施設のスクラップアンドビルドやダウンサイジングなどの再構築が必要」、「財政に限りがある中では、民間企業との協働や、民間資金の導入などが重要であり、PPP/PFI手法などを活用した費用の平準化も検討すべき」、「インフラ投資全体を見通したスケジュールを立案し、将来に憂いのないよう取組を進めていただきたい」などの御意見がございました。

12ページを御覧ください。

テーマ4「事務事業の継続的な見直し」につきましては、「概ねプランどおりに進捗している」と評価をいただいております。

「事務事業の見直しは、職員の意識改革に寄与するものであり、効果的な民間委託や人員の適正配置にもつながる」、「NEXT STAGEに掲げている取組に限らず、様々な観点から不断に取り組んでいく必要がある」などの御意見がございました。

14ページを御覧ください。

テーマ5「新たな財源創出と効率的な財政運営」につきまして、「順調に進捗しており、財政効果の指標も顕著」との評価となっております。

「安定した財政状況の継続は、自治体にとって大きな価値」、「更なる収入源の開拓に向け、一過性に留まらない取組を進めるべき」、「収入にスポットを当てた切り口だけでなく、公告を掲載する企業を苫小牧市のサポーターとして発信することにより、企業の公告戦略意識を促し、市民・企業・自治体が相互に関心を持つことにつなげることで、市の財政状況の好循環につなげるよう、積極的な取組に期待する」などの御意見がございました。

16ページを御覧ください。

テーマ6「機能的な組織づくり」につきましては、「今後の少子高齢化や人口減少を踏まえ、行政サービスの在り方に応じた適正な人員管理が望まれる」、「働き方改革の要素を取り入れるべき」、「組織づくりはゴールのない取組であるが、業務における課題抽出とその解決を反復する意識・実践が恒常化する組織風土の形成を目指し、取組を進めていただきたい」などの御意見がございました。

18ページを御覧ください。

テーマ7「協働によるまちづくり」につきましては、「まちづくりの推進にあたり、市民や企業の参加は不可欠な要素である」、「行政・市

	<p>民・企業の協働にあたり、そのコーディネートには行政の力が必要であり、その接点の強化に向けた取組に期待」、「協働の原動力として、市民の愛郷心を育むような方策についても検討していただきたい」などの御意見がございました。</p> <p>最後に、20ページを御覧ください。</p> <p>委員の皆様からは、プラン全体に対しましても、多数の御意見をいただきました。事務局で内容を精査させていただき、「総評」としてまとめております。</p> <p>主な内容といたしましては、「NEXT STAGEの取組は着実に成果を上げており、このことは、NEXT STAGEに掲げる考え方を『てこ』として、行政組織や職員意識をイノベートした手法として評価すべき」、「NEXT STAGEに掲げる取組は、いずれも市政運営において重要なキーワードであり、早期に実践可能なものは、迅速かつ積極的に進めるべき」、「今後、全国や世界のステージで施策を講じるためには、苫小牧の地域のイメージ戦略づくりが重要である」、「新たな行政運営を目指す上では、これまで以上に市民や企業を巻き込んで協働しながら、効果的な事業を展開すべき」、「そのためには、分かりやすい情報公開が不可欠であることから、情報発信の強化にも努めていただきたい」、「行政においては、一つひとつの課題を解決していく不断の努力が必要であり、従来の考え方にとらわれない、斬新で柔軟な発想・実践によるチャレンジに期待」などの御意見をいただいております、このような形にまとめさせていただきました。</p> <p>以上が、簡単ではございますが、意見書案についての説明となります。</p> <p>本日の審議会では、この内容につきまして、修正すべき点や追加すべき御意見などについて議論いただき、内容を確定させてまいりたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
石森会長	<p>ただ今、事務局から説明がありましたが、御意見や御質問はございますか。</p>
中瀬委員	<p>6ページの移住・定住促進に向けた情報発信の取組について、現在では、移住・定住に関するリンクが苫小牧市のホームページのトップページに来ていますよね。これは非常に良いことだと思いますが、アクセス数などは変化しているのですか。</p>

事務局	アクセス数については把握しておりませんでしたので、確認して後日回答させていただきます。
石森会長	そのほかございますか。
川島副会長	言葉の確認でもよろしいでしょうか。7ページの7の3項目について、「コンビニ収納に要する手数料については受益者負担として、コンビニ収納を利用する市民に負担させる」と記載されていますが、これはどのような意味なのか、お聞きしたいと思います。 例えば、銀行や郵便局で、赤い納付書なら手数料がかからないけども、青いものなら80円がかかるというように、コンビニに支払うときの納付書を変えて、その手数料もお支払する人が各自払ってくださいと、そういう意味でしょうか。
須田委員	これは私が書いた意見ですが、川島委員の仰るとおり、コンビニ収納の手数料が大きいということであれば、受益者負担として、その便益を受けた人が自分自身でお支払することで解決できるというふうに考え、このように記載しました。
川島副会長	具体的なイメージとしては、どのような形になるのでしょうか。考え方はそうかなという気もしますけれど、それを実際に行う場面でどういうことになるのか分かりづらいと思います。
須田委員	私自身コンビニで支払したことはないのですが、納付書を発行して郵送するときに、元々の料金に手数料を付加した金額を納付額とするか、もしくは手数料分を別納するというイメージです。
川島副会長	なるほど。納付書の中に、例えば指定銀行なら手数料はかからないけども、コンビニで支払う場合には、この分を加えてお支払くださいというイメージですか。
須田委員	そうです。そうすれば、少しはコンビニ収納が減り、銀行で納める人が増えるのかなという感じがします。
石森会長	やはり市の財政負担の面から言うと、コンビニ支払だと収入が確保される反面、手数料の支出も増えるということになりますよね。行革審の趣旨として平等性ということがありますが、なかなかその負担分は回収できないものね。
事務局	コンビニ収納においては、市が負担する部分がどうしても出てきます。前回石田委員からお話があったように、口座振替なら市としての負担は少なくて済みます。ただ一方で、窓口にお支払に来る方の数が、コンビニ収納により減っているということもあります。今後、口座振替やコンビニ収納が広まり、市民の選択肢が増えてくると、行政側の人件費も含めた負担は減ってくると考えているところです。

石森会長	利便性は損なわれますね。
事務局	支払方法の選択肢が広がることで、市民にとっての利便性は高まりますし、市としてもその徴収にかかっていた費用が抑えられています。以前は、夜間窓口を開設していたこともありました。
石森会長	それは分かりますが、コンビニと銀行を比べると、コンビニに対しては手数料を多く負担しているわけですよね。その負担分を行政が回収しないと意味がないのではないかとやっているわけです。
杉立委員	<p>このままいけば、コンビニに全て支配されてしまうのかとも思います。市民サービスが向上するのは非常に良いことだと思いますし、近くにコンビニがあるから払うことができる方もいます。ただ、市民サービスが過剰というか、あまりに便利過ぎると、そこに問題が生じます。コンビニを利用することにより、確かに支払う人が増えたかもしれませんが、やはりそこに対しては、市として財政的な負担があります。それに、どんどんエスカレートして、他のお店に行かなくてもコンビニで全部できるとなれば、果たしてそれでまちは良いのかなとも思います。</p> <p>コンビニで支払うのは、お年寄りの方が多いのですかね。年齢層はどうなのでしょう。</p>
石森会長	若い人も多いのではないですか。
杉立委員	これからの少子高齢化を踏まえて、進めていった方が良いと思います。例えば、若い人に銀行で支払うことが当たり前なのだと、コンビニで払うと税金の負担がかかるのだということを周知していけば良いのではないのでしょうか。今まで銀行で支払っていた人でも、コンビニに行くようにチェンジした方が多いのではないかととも思います。
石森会長	<p>時間あたりのマーケットを考えると、支払うチャンスというか、時間が結構多いですからね。</p> <p>ただ、ここで結論を出すのもなかなか難しく、将来どのような形になるのかということは、中長期的な課題として、少し状況を見ながら判断すべきだと思います。今後、銀行が店舗を増やしていけば良いですが、一方でコンビニはどんどん増えていくわけです。過疎地では、特にコンビニという機能が重要視されているということもあります。</p> <p>しかしながら、やはり行政がお金を負担するという点については、それなりの理由や考え方をしっかり整理することが必要なのではないのでしょうか。</p>

藤田委員	<p>この内容で意見を提出させていただいたら、それぞれ判断する担当部署があるわけですね。そのような部署に、この点についてちゃんと要望できないのかなと思います。</p> <p>例えば、LCCの航空券をWEBで注文すると、支払方法によって請求額が変わります。受益者負担で、たくさん用意された選択肢のうち、便利であろうものを選択すると料金が高くなるなど、便利はタダではないということが当たり前になっている気がします。行政サービスの部分でも、便利はタダではないということをベースにしていくことが必要だと思います。今はコンビニ収納に論点が集まっていますが、他のあらゆる部分で、利便性のために選択肢を広げたのならば、コストはかかるけど便利なものや、ちょっと手間はかかるけどコストは安いものといった形で、市民サービスとしては結構ではないかと思いますので、何か表現方法を工夫できればと思います。</p>
石森会長	<p>われわれが今チャレンジしている市民サービスとコストという考え方がまさに難しいところですが、その点は担当課にもよく話をさせていただき、表現を修正したいと思います。非常に大事な論点ではないかと思いますので、全体として、どのように修正すべきかについては事務局の方で検討をお願いします。</p>
事務局	<p>ただいまの議論の焦点は、良いサービスや楽なサービスに対する受益者負担という点だと思いますので、受益者負担という言葉も含め、修正を検討させていただきます。</p>
石森会長	<p>そのほかございますか。</p>
川島副会長	<p>8ページのところですが、テーマ2に対する意見の内容の3行目から4行目にかけてのところ、「民間ができない部分を行政が補う」という言葉があります。私の中では少しいメージが違うのではないかと思います。要するに、民間の方がより質の高いサービスを提供できるのであれば、より効果的、あるいは効率的な形でお願いするという意味ではないでしょうか。あくまで、苫小牧市としての行政サービスの根本については、市がきちんと責任を持って行うという意味ではないかという気がしますが、いかがでしょうか。</p>
事務局	<p>この部分について、行革プランの中では「民間に委ねることが可能なもの、民間になじむものは民間へ」として、補完性の原則という考え方を記載した形となっております。</p>
石森会長	<p>それと同じ表現に変えたらどうですか。民間ができない部分を行政が補うという書き方は少しはっきりし過ぎだと思いますね。</p> <p>そのほかございますか。市民ホールについてはどうですか。</p>

川島副会長	10ページから11ページの市民ホールについてですが、これまでの議論で質問が漏れていたものがありまして、現在の市民会館など、既存の施設の後はどうするのか、そのあたりの目標というか考え方が分かれば教えていただきたいと思います。
石森会長	現在どのような進捗なのかも、分かる範囲でお話いただけますか。
事務局	市民ホールの建設にあたっては、現在の市民会館、文化会館、労働福祉センター、そして交通安全センター、これらの機能を統合したものにしようというコンセプトで進めております。市民ホールの建設後については、それらの施設は廃止という形になろうかと思っております。
川島副会長	それは分かります。その跡地はどうするのですか。まちづくりの一環として、その跡地には新たにこのようなものを置くだとか、そのような計画はあるのでしょうか。今は、一つの新しい市民ホールをつくるという考えばかりが聞こえてきますけれど、その後の展開としては、ずっと更地のままにするのかどうかも含め、総合的なアイデアというのはあるのでしょうか。
事務局	市民会館の跡地については、おそらく、市民ホールの駐車場など、その敷地内に含まれるような形になるかと思っておりますが、それ以外の統合する施設については、まだ跡地利用の話までは進んでいない状況となっております。
石森会長	市民ホールに関し、11ページの上の方に書いてある点についてですが、このまま建設すると、100億円近い相当多額な資金が必要になると報道されています。これについては、もっと民間資金や民間活力の活用として、PPP/PFIという手法を使っていこうということで、新たに再出発するするのだと認識しています。ただ、自己評価としてはC評価ということです。いろいろと議論を重ね、もっと市民の意見を聞いてという点では、そのような評価になるのかもしれないが、再出発となったときに、このC評価をどうするのかという議論も来年、再来年にしなければならないと思います。 給与明細の取組もそうですが、この取組も新たに電子化してパソコンで見られるようにするという案に変わりましたので、C評価ではなく、また違うランクに評価してはどうかということも議論していくべきだというふうに思っているところです。
事務局	こちらの評価につきましては、あくまで担当課の自己評価ということにはなりますが、今回の評価対象が改訂前のプランに対する評価というところで、当初の工程に対して遅れているという自己評価になっているかと思っております。

	<p>来年以降につきましては、改訂版により、工程を見直した形で評価していくこととなりますので、また改めて評価を議論していただければと思います。</p>
石森会長	<p>そのほかございますか。</p>
山上委員	<p>市民ホールに関連して、現在の各施設の役割についてです。例えば、文化会館ですと、苫小牧の町場の音楽を愛好しているグループの人たちが発表するような場として、毎年決まって発表会をしています。なぜ市民会館を使わないかという、施設の規模や観客動員、音響効果などいろいろな理由があります。労働福祉センターでは、シルバー人材センターの65歳を過ぎて退職をされた人たちが、これまでのノウハウを生かしながら、市のいろいろな業務に役立てようというグループ活動をされています。その施設ごとの役割がある中で、それらを一つのホールにするこの意味合いとしては、良いこともある反面、阻害される部分もあるのかと思うものですから、市民の皆さんにとって1ホール化が本当に良いのかとも思います。それから、現在の各施設を運営されている方がどのような意見を持っているかも調査した上で、次のステップを踏んでいった方が良いのではないかと思います。</p> <p>時間をかけて議論するというのも記載されていますが、焦らずに、市民の皆さんの意見と今まで各施設が果たしてきた役割や歴史を十分把握した上で、進めていただきたいというのがお願いです。</p> <p>今回の意見書については、このような表現で良いと思います。</p>
事務局	<p>市民ホールにつきましては、それらの施設の機能を複合化した施設ということで、一つのホールで全てのことをやろうというコンセプトではないのかなと思います。こちらについては、御意見として頂戴したいと思います。</p>
石森会長	<p>そういう意味では、市民にもっと分かりやすく情報提供していただけるよう、担当部署にお願いしたいと思います。</p> <p>そのほかございますか。</p>
松村委員	<p>18ページの期日前投票の取組で、直接は関連しないことではありますが、今回の市議の補選では、あまりに投票率が低かったということです。果たして、この時期に実施する必要があったのか、来年また選挙があるのに無駄な経費ではないかということに触れたいです。</p>
石森会長	<p>これは議会で反対したのですよね。</p>
松村委員	<p>議会で反対したということも新聞に載っていましたが、どうも民間の意見が反映されていないような気がしますので、この行革審で、もし文言化できるのであれば、載せていただきたいと思います。</p>

事務局	委員の仰るとおりではありますが、法律で実施しなければならないということもあります。
松村委員	ただ、声を上げることの大切さもあるかと思います。法律は法律で認識しながらも、現場の意見はこうですというようなことも表していかないと、いつまでも変わらないと思うのですよね。
石森会長	行革審議会ですから、費用がかかったという点では1行書いても良いのではないのでしょうか。
中村委員	市で条例などをつくることはできないのでしょうか。ある取組に関しても、自治体によって解釈だとかは全然違いますよね。
事務局	やはり日本というのは法治国家ですから、国でつくる法律がまずあり、法律の下位として各自治体がつくる条例があります。国の法律の趣旨に反するような条例というのは法令違反となります。本来は苫小牧市でも市長選と市議選が同一日に行われていたわけですが、ちょっとした事情で半年ずれてしまいました。それを法律上また元に戻すとすると、市長が辞職するか、議会を解散するしかないということで、つい先日も市議会の検討委員会で、選挙日を合わせるかどうかについて検討されていましたが、なかなか現状では思い切って議会を解散する手法は難しいという結論に至っておりますので、法的にも難しい状況となっております。 この点については、ずれたときから市民の方々から御意見をいただいております。1回の選挙で、数千万円の選挙費用がかかっておりますが、この点はなかなか難しい課題だと感じています。
松村委員	何よりこの補選に対して、市民は本当に興味を持っていないというのがこの投票率に表れていると思います。
事務局	意見書に記載するとすれば、例えば、法的にはこうだけれども、これだけの費用がかかったところで、実質的な意義が、などといった文章になるかと思います。
石森会長	やはりお金がかかり過ぎていて、その目的に達した選挙かどうかを吟味すべきであるという表現が良いのではないのでしょうか。
川島副会長	この件については、結局その投票率の問題があり、26.17%ということですので。30%を切り、過去最低ということですので、そのようなことが問題ではないかというニュアンスで記述するのはどうでしょうか。例えば、50%くらいの投票率があればある程度納得できるかもしれないけれど、これだけのお金がかかっているという部分に関して、やはり検討の余地があるのではないかという感じではないですかね。

石森会長	それでは、そのようなことで調整をお願いします。 そのほかございますか。
中村委員	総評についてですが、ちょうど真ん中あたりに「世界標準の都市機能を目指しながら」という文言があります。とても耳触りの良い言葉ですが、分かったような、分からないような感じがします。この「世界標準の都市機能」というのは、具体的にどんなことを指しているのですか。
事務局	例えば、テーマ1の全体に対する御意見で似たような表現が出てきますが、「他の都市で受けられるサービスが苫小牧で受けられないということもなくし」ということもあるかと思います。
中村委員	それは、国内の話ですよ。
事務局	それも全国や世界と、より広い視点で見たときに、同様の行政サービスを受けられるというところも一つあるのかというふうに解釈しております。
石森会長	世界標準よりも、都市の国際化標準が良いのではないですかね。言葉として「世界標準の都市機能を目指しながら」というのは、国際化ですよ。やはりこれから外国人も増えるでしょうし、苫小牧にいろいろな人が住むようになるという中で、そのようなレベルまでいかなければならないということでしょうから。 国際化標準や国際的な標準など、そのような表現ではいかがですか。
事務局	表現を調整させていただきます。
石森会長	そのほかございますか。
川島副会長	総評のところで、次の「苫小牧市ならではのキラーコンテンツを育み」とありますが、「キラーコンテンツ」という片仮名表現は、なぜこのような言葉にしたのでしょうか。ここは、やはり日本語に置き換えて表現すべきではないかなと思います。
事務局	強みだとか、そういう感じの言葉になります。いただいた御意見からそのまま使わせていただいた言葉ではありますが、分かりにくいということでしたら、日本語に置き換えてもよろしいかと思います。
石森会長	そのほかございますか。
池永委員	同じように、「イノベーション」という言葉も気になります。維新や革新という意味でしょうか。
石森会長	分かりやすくしましょう。 そのほか、石田委員はいかがですか。
石田委員	総体的にはうまくまとまっていると思います。あまり言い過ぎると行革に反する部分があるので、なかなか言いづらい部分がありますが、

	先ほどの受益者負担の部分について、やはり不公平感があってはいけないと思いますので、そのあたりは検討していただければと思います。おそらく今後はいろいろな選択肢が出てきますので、行政サービスの収納方法としても時代の変化とともに大きく変わっていきたく思います。やはり、その時代に応じた対応が必要になってくると思いますので、それも含め、いろいろと検討していかれたらよろしいのではないかと思います。
石森会長	そのほかございますか。
中瀬委員	20ページで、「今後は苫小牧市という枠にとどまらず」という記載がありますが、駅前再開発についても、具体的なプロジェクトを組んで進めていくことも大事だと思います。やはり苫小牧駅周辺を活性化していかないと、イメージ戦略以前の問題ではないかと個人的には思いますので、このあたりについても検討していただければと思います。
石森会長	はい、須田委員はどうですか。
須田委員	11ページの市営住宅の管理戸数の適正化の取組で、直接は関係しないのですが、現在でも独居老人が相当数いますでしょうし、これからも増えるのかなという心配があります。今後は人類が経験したことの無いようなスピードで超高齢化社会が進むはずですが、この苫小牧においても相当なスピードで進むのだろうと予想していますし、先日製紙会社が閉鎖するかもしれないということもありましたが、今後そのようなことも大きな企業であり得ます。今後10年、20年というスパンで考えると、数万人レベルで人口減少が急激に進む可能性があるということに鑑みますと、やはり市営住宅の適正化も気になりますし、独居老人対策も心配です。先日火事もありましたよね。あのニュースを見たときに、とても心配になりました。
石森会長	そのほか、菅原委員はどうですか。
菅原委員	多様な御意見をうまくまとめて掲載していただいていると思います。 前回、今回の議論で、たまたまコンビニということがキーワードになりましたけれども、これは別にコンビニでも何でもいいのだと思います。要するに、コンビニだとか、ほかにもクレジットカードによる収納とか、窓口の一元化とかという取組もありますけれども、社会的なサービスの多様化の要請で、現在は、一元化やワンストップ的なところの価値が高いということなのではないかと思います。いずれ通信手段の変化やキャッシュレスがもっと進めば、コンビニに納付書を持っていき、現金を出す人などいない時代が来ると思うのですよね。で

	<p>すので、今はコンビニという手段が非常に重宝されているのかもしれないですけども、やはり施策的にはワンストップというか、そのような方向で今後も考えていくことが必要なのかなと思います。</p> <p>あともう一つ、受益者負担の話もありましたけれども、税金を払って無料でサービス受けているものもありますし、ごみのように有料化しているものもあります。行政的な無料のサービスと有料のサービスの線引きというか、どのあたりに合理性を求めていくかということは、一つのテーマだけではなくて、いろいろな行政サービスのテーマであって、これから検証しながら、理解をいただきながら、決めたり進めたりしなければならないのだということが、議論の中で考えさせられるところかなと思いました。</p>
石森会長	<p>行革審でわれわれが議論している中でも、市民サービスというのをどう捉えるかという非常に有意義な指摘ではないかと思います。それから、支払や金融の手段についても、この間フランスに行って驚きましたが、地下鉄の切符1枚買うのにもカードなのですね。財布を持っているのは日本人だけです。そのような状況がもう押し寄せてきている中で、今後どのようなようになっていくかというのを見極めていかないとなかなか難しいですね。</p>
滝本委員	<p>18ページのテーマ7「協働によるまちづくり」の中で、苫小牧市は自治基本条例や市民参加条例がありますが、何か大事なことを決めるときに、市民参加条例などを活用してみたいと思っても、その入り口が分からなくて、なかなか皆さんの声として提出できないというところがあると思います。今後、IRの問題もありますよね。そういうところで市民参加条例などを活用して取り組んでいきたいという人が必ずいると思いますが、意見を言いやすいようにポストみたいなものをつくって、市民の意見をスピードをもって受け入れられるような窓口をつくってほしいと思います。また、そのような声が出てきたら、実際にそれを動かせるような機能をつくってほしいと思います。</p>
事務局	<p>御意見として頂戴したいと思います。ポストということでは、「とま★ボ」というポストは設けていますが、あまり御意見が入っていないという状況ですので、もっと市民にとって入り口が分かりやすくという意見を加えさせていただきたいと思います。</p>
石森会長	<p>今回、C評価の項目だけチェックさせていただきましたが、どうして進んでいないのだろうかということを事務局にお聞きしたいと思います。</p> <p>13ページの9番、LEDの普及促進ですが、市が一番遅いのでは</p>

	<p>ないかと思えます。新電力の導入などを実施していることは評価できると思えますけれども、LED化を民間で採用すると省エネにてき面ということです。お金のかかる取組であり、予算が障壁となっているのでしようけども、その分すぐ取り戻せるという代物ですので、担当課には点検をお願いしたいと思えます。</p> <p>それからもう一つ、テーマ6とテーマ7にはA評価の項目がないのですね。したがって、ここがまず隗より始めよで、働き方改革とか、市民の参加の仕方ですとか、なかなか難しい部分だろうとは思いますが、これをA評価に持っていくためにはどうしたらいいかというのが次のステップではないかと思えます。この点は、次の課題として整理をする必要があるのではないかと思えます。</p> <p>そのほかございますか。</p>
藤田委員	<p>この資料自体は非常によくできていると思えます。進捗確認としては十分だと思えますけれども、総評の部分だけが計画の進捗というよりは、未来のことについて言及できるスペースなのかと思えます。先ほど須田委員が仰った少子高齢化に対する問題の部分で、この審議会にお邪魔させていただいて一つだけ違和感を覚えているのは、その少子高齢化に対しての策というのが非常に薄いのではないかという点です。これだけ行政区域の広い苫小牧ですから、簡単にコンパクトシティ化ができるとも思えませんし、私は結構道南バスさんを使うのですが、公共交通機関も不便ですし、車がなければ暮らしにくいまちなになっている現状の中で、年老いたときどうなるのか。そのようなことを考えると、少子高齢化に対する問題提起や危機意識について、総評のところでもう少し言及すべきではないかと思えます。私はガス屋でございまして、灯油ガスで5,000世帯くらいに供給をさせていただいているのですが、毎日すごい数の名義変更の届け出があります。名義変更というのは、請求先変更をして、旦那さんが亡くなって奥様に請求先を変更するものなのですが、それが相当な数毎日上がってきます。10年、20年というスパンではなく、もう足元に迫ってきている問題だと思えますし、これだけ広大な苫小牧の中で行政サービスをしっかりと維持していくために何をしていくべきなのかというところで、次の計画にしっかりと盛り込んでいかなければいけないといったことを、この総評の部分に今後の問題提起として、もう少し厚みを持たせて掲載していただきたいと思えます。</p>
石森会長	<p>貴重な御意見だと思えますので、事務局の方で修正をお願いします。そのほかございますか。</p>

	<p>なければ、最終的な意見書の調整につきましては、本日の御意見を踏まえ、私と事務局に一任いただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p>
各委員	<p>異議なし</p>
石森会長	<p>それでは、私と事務局に最終的な調整は任せていただくということで、お願いしたいと思います。</p> <p>では、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>本日の審議会でご意見があった点につきましては、意見書に反映させていただきたいと思います。</p> <p>確定した意見書につきましては、7月27日に石森会長から市長に提出いただき、9月議会で公表する予定としております。</p> <p>なお、確定した意見書につきましては、委員の皆様へ、後日郵送させていただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、最後に、全体を通して何かございますか。</p> <p>なければ、事務局からお願いします。</p>
事務局	<p>次回の審議会につきましては、11月頃の開催を予定しております。ここでは、平成30年度上半期の取組状況について、報告させていただきたいと思います。</p> <p>なお、日程につきましては、時期が近づきましたら、御案内させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p>
石森会長	<p>それでは、本日の審議会を終了いたします。ありがとうございました。</p>